

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



ブルック・ミーガン先生
（オーストラリア・クイーンズランド州）

☎本庁舎学校教育課 内2365

英語を楽しく学びましょう！

みなさんこんにちは。前回に引き続きミーガンです。10月31日はハロウィンですね。オーストラリアでは、シンプルな仮装をして近所の子どもたちにキャンディを配って楽しんでいました。

私は2学期から中央中、関辺小の授業を担当しています。楽しく英語を学んでもらおうと、数字のカルタを作りました。まだ始まったばかりですが、これからもっと楽しい授業がしたいと思っています。たくさんの白河の子どもたちと仲良くなりたいので、気軽に声をかけてください。休み時間は一緒に遊びましょう！

映画を字幕で見ると、楽しく英語を学ぶことができ、早く覚えら

れると思います。私もジブリ映画を見て、日本語を勉強しました。私の夢は、在日オーストラリア大使館で働くことです。夢の実現のために、白河で頑張ります！



▲関辺小での授業の様子

英語で一言！

Live your dreams.

「夢に生きる」



白河歴史人物伝

父定信の業績を追った「長男」

真田幸貫

（1791～1852）



真田幸貫六十一歳肖像（部分）
（長野市・真田宝物館蔵）
亡くなる前年の肖像です。

《複雑な生い立ち》

幸貫は寛政3年（1791）9月、松平定信の子として産まれました。定信には初の男子でしたが、その後すぐに定信と正室の間に男子（定永）が産まれ、嫡男とされたため、幸貫は「次郎」と命名、次男の扱いとされました。このような複雑な生い立ちから、幸貫の人生はスタートしました。6歳のとき、幸貫は約半年間、定永と離れて白河に滞在しました。父定信も白河におり、2人での白河滞在は、定信の配慮だったのかも知れません。

《真田家相続と老中就任》

定信に行く末を気にかけるれていた幸貫は、文化12年（1815）、25歳で松代藩（長野県長野市）真田家に養子入りしました。文政6年（18

シリーズで学ぶ

Vol.18

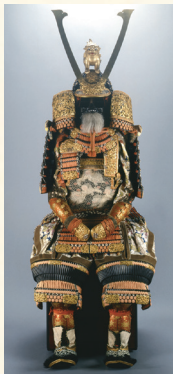
23）には家を継いで藩主となり、藩政改革を開始します。家臣で思想家の佐久間象山を登用して軍備を強化し、産業振興に努め、藩校を設立しました。51歳の天保12年（1841）には老中となり、水野忠邦のもと2年間「天保の改革」を担い、特に対外問題に対応する「海防掛」となりました。

《文化大名としての幸貫》

幸貫は父定信と同様に政治だけでなく、文化面でも事跡を残しています。自ら茶碗を焼いたほか、書

絵画にも秀で、梅の花の図譜などを残しています。また古い様式の鎧も作らせた。晩年まで政治・文化両面に才能を発揮した幸貫は、嘉永5年（1852）、62歳で亡くなりました。

父定信を追いかけたような幸貫の人生は、他家に出たが定信の子だ、という強い想いの現れなのかも知れません。



緋緋織大鎧、小具足付（真田宝物館蔵）
古い様式を復元した鎧で、定信の「集古十種」に載る源義経所用と伝わる鎧などを模したものです。

文化財課 ☎272310